

独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所 さけます資源部

8 月に入り北海道東部の沿岸および河川にはカラフトマスが本格的に回帰し、8 月下旬からはえりも以東海区を皮切りに秋サケ定置網漁業が始まりました。

今回、第 2 報として、8 月 31 日現在の北海道におけるカラフトマスおよびサケの来遊状況をお知らせします。

なお、来遊状況の取りまとめにあたり、迅速な情報提供などのご協力をいただいた北海道および増殖団体の関係者に感謝いたします。

1 カラフトマス来遊状況

- ・ 来遊数は 494 万尾 (対前年同期比 : 89.2%、平年同期比 : 80.5%)
- ・ オホーツク海区を含む日本海側で 463 万尾 (対前年同期比 : 90.8%)、根室海区を含む太平洋側で 31 万尾 (対前年同期比 : 71.2%)
- ・ 平成 15 (2003) 年以降における奇数年で最も少ない

(北海道)

8 月 31 日現在、北海道のカラフトマス来遊数は 494 万尾 [対前年同期比 : 89.2%、平年(平成元 (1989) 年～平成 22 (2010) 年の平均値、以下同)同期比 : 80.5%] となっています。

豊漁年と不漁年が入れ替わった平成 15 (2003) 年～16 (2004) 年以降(豊漁年が奇数年、不漁年が偶数年にあたる)の同じ時期(8/31 現在)と比べてみると、本年は平成 18(2006)年、16(2004)年に次いで少なく、最近の奇数年の中では最も少ない来遊数となっています。(表 1 及び図 1)。

来遊年	8/31現在	最終
2011(H23)	494	—
2010(H22)	554	731
2009(H21)	954	1,111
2008(H20)	552	704
2007(H19)	1,335	1,491
2006(H18)	278	559
2005(H17)	814	918
2004(H16)	477	587
2003(H15)	916	1,184
平年	614	953

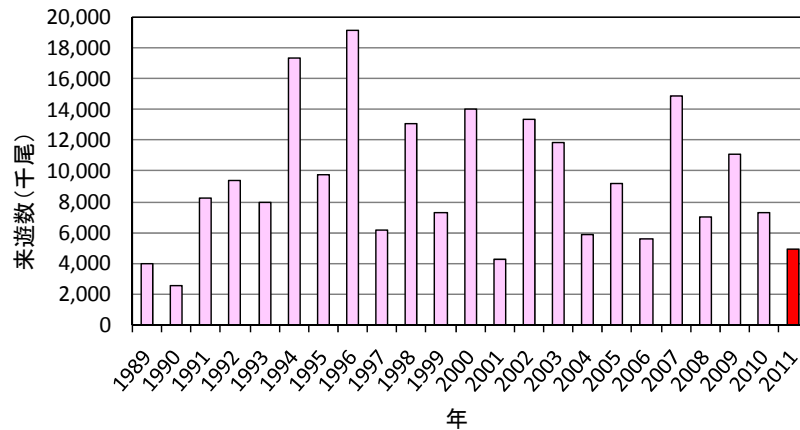


図1. カラフトマス来遊数. 平成23(2011年)は8月31日現在の数値.

一方、地域別にみると、日本海側（オホーツク海区及び日本海区、以下同）では463万尾（対前年同期比：90.8%）、太平洋側（根室～えりも以西海区、以下同）では31万尾（対前年同期比：71.2%）と太平洋側で前年同期と比べて大幅な減少を示しており、地域差がみられる来遊状況となっています。

第1報でも紹介しましたが、図2.はカラフトマスのその年の総沿岸漁獲数および総河川捕獲数の半数が来遊した時期（月旬）をプロットしたものです。これによるとカラフトマスの来遊時期は奇数年には早く、偶数年には遅くなる傾向があり、この傾向は沿岸漁獲数で顕著です。

本年は低調な出だしのまま、8月中旬をピークとして、8月下旬には減少しており、来遊時期のパターンこそ奇数年の傾向を示しましたが（図3）、来遊数は近年の偶数年に近い水準となっています（図4）。

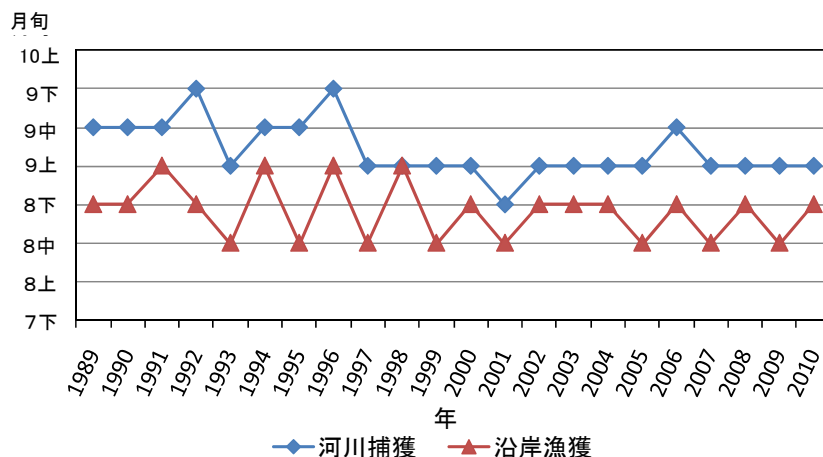


図2. カラフトマスの総沿岸漁獲数および総河川捕獲数における半数来遊月旬.

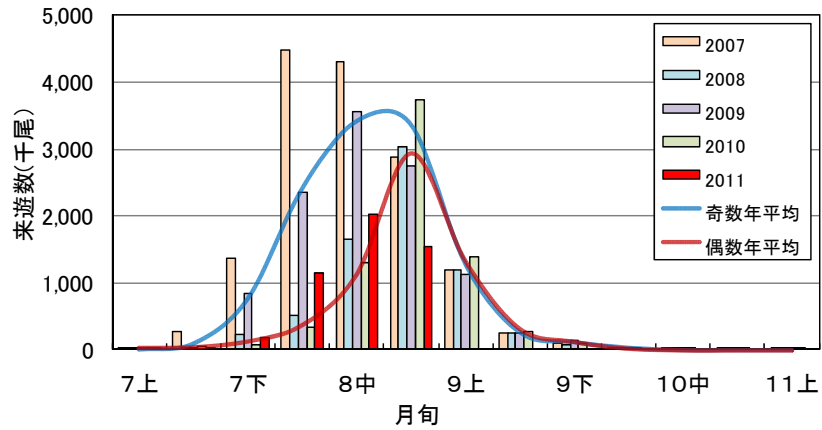


図 3. カラフトマス旬別来遊数. 奇数年平均は 2003, 2005, 2007, 2009 の平均値、偶数年平均は 2004, 2006, 2008, 2010 年の平均値を示す.

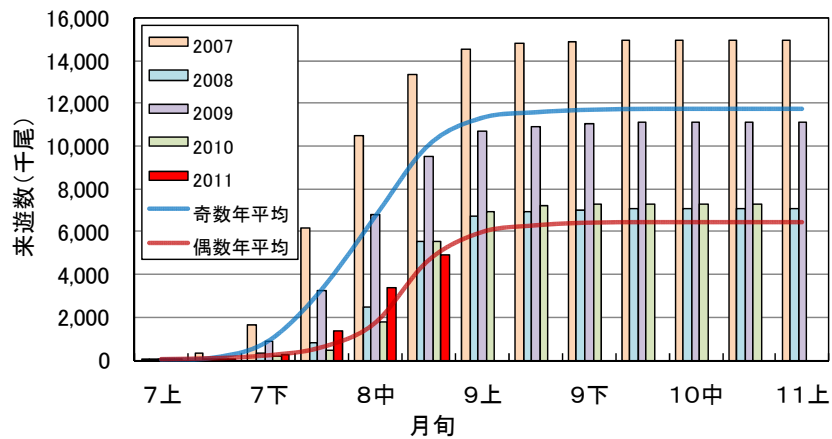


図 4. カラフトマス旬別累積来遊数. 奇数年平均、偶数年平均は図 3 に同じ.

一方、カラフトマスの河川捕獲数は、主産地である網走および根室管内において、ふ化放流計画に必要な親魚確保のため、沿岸漁業者による自主規制措置等の対策が行われ、31万尾(対前年同期比：158.7%、平年同期比：126.5%)となっています(表 2)。

来遊年	河川捕獲数	
	8/31現在	最終
2011(H23)	31	-
2010(H22)	20	87
2009(H21)	56	131
2008(H20)	27	92
2007(H19)	57	144
2006(H18)	9	94
2005(H17)	40	89
2004(H16)	18	65
2003(H15)	41	118
平年	24	99

2 サケ来遊状況

- ・ 来遊数は 42 万尾（対前年同期比：67.1%、平年同期比：44.3%）
- ・ オホーツク海区を含む日本海側で 25 万尾（対前年同期比：86.5%）、根室海区を含む太平洋側で 17 万尾（対前年同期比：50.5%）

（北海道）

8月31日現在、北海道のサケ来遊数は42万尾(対前年同期比67.1%、対平年同期比44.3%)となっています。また、地域別にみると、太平洋側では17万尾(対前年同期比50.5%、対平年同期比27.4%)、日本海側では25万尾(対前年同期比86.5%、対平年同期比75.9%)となっています(表3)。

本年は、えりも以東海区の全漁場において、親魚確保のための秋サケ定置網漁業に係る自主規制措置等の対策が操業始期からとられており、漁期入りが遅くなっています。北海道のサケは9月下旬、または10月上旬をピークに沿岸で漁獲される(図5)ことから、今後の来遊数増加が期待されるところです。

表3. サケ来遊数(北海道)

来遊年	北海道全体		北海道太平洋側		北海道日本海側	
	8/31現在	最終	8/31現在	最終	8/31現在	最終
2011(H23)	42	-	17	-	25	-
2010(H22)	63	3,817	34	1,615	29	2,202
2009(H21)	112	4,629	52	2,655	60	1,974
2008(H20)	117	3,757	76	2,361	41	1,395
2007(H19)	141	5,114	97	3,243	44	1,871
平年	95	4,360	62	2,789	33	1,571

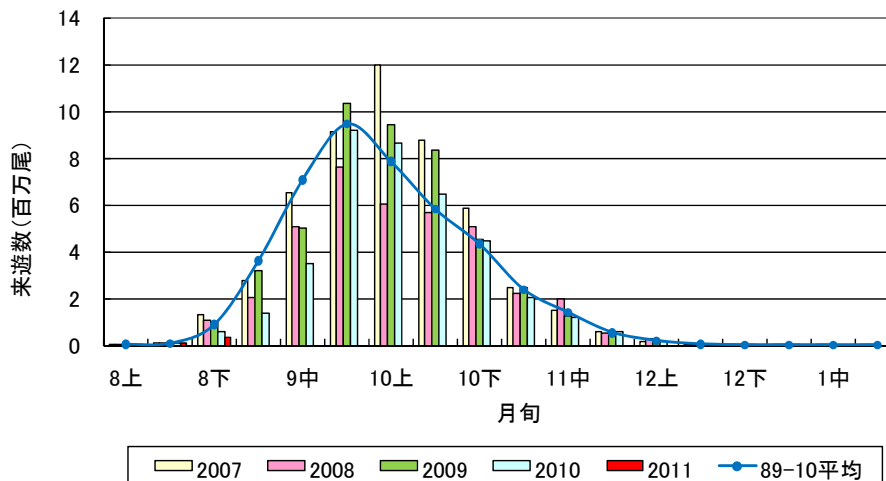
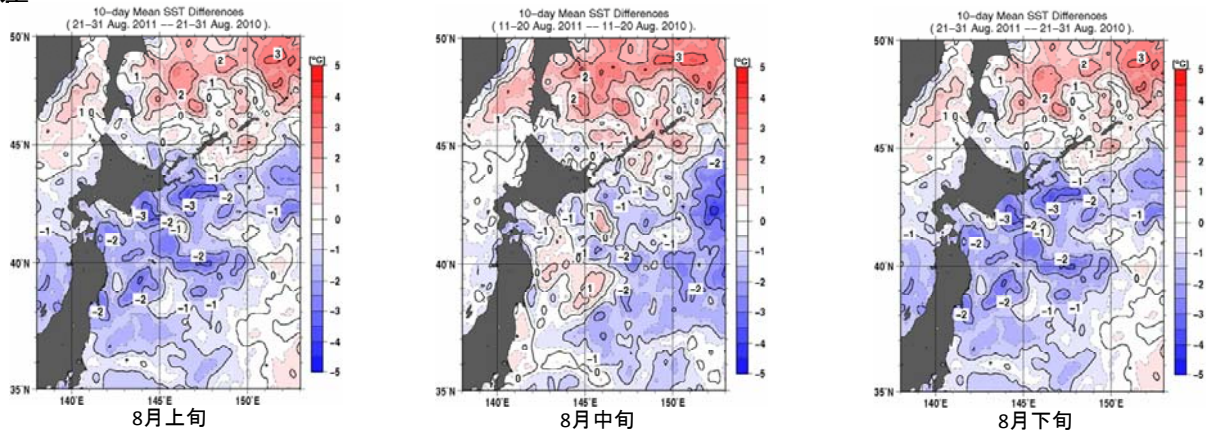


図5. サケ旬別来遊数.

3 北日本の海況

気象庁における 8 月 31 日発表の「海洋の健康診断表」(発表: 函館海洋気象台 http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/e_1/hakodate_sst/hakodate_sst.html) によると、高水温傾向が顕著であった昨年(平成 22 年)と比較すると本年は 1~3°C 低く推移しています。しかし、平年値と比較すると 7 月に引き続き 8 月も全般に海面水温が高く推移しているといえます。中でもカラフトマスの主産地であるオホーツク及び根室海峡は平年より 1~2°C 以上高い状況が続いています。北海道太平洋側の一部(えりも以東海区)では、8 月下旬に入り、平年並みの水温帯が見られるようになっていきます。(図 5)。

前年差



平年差

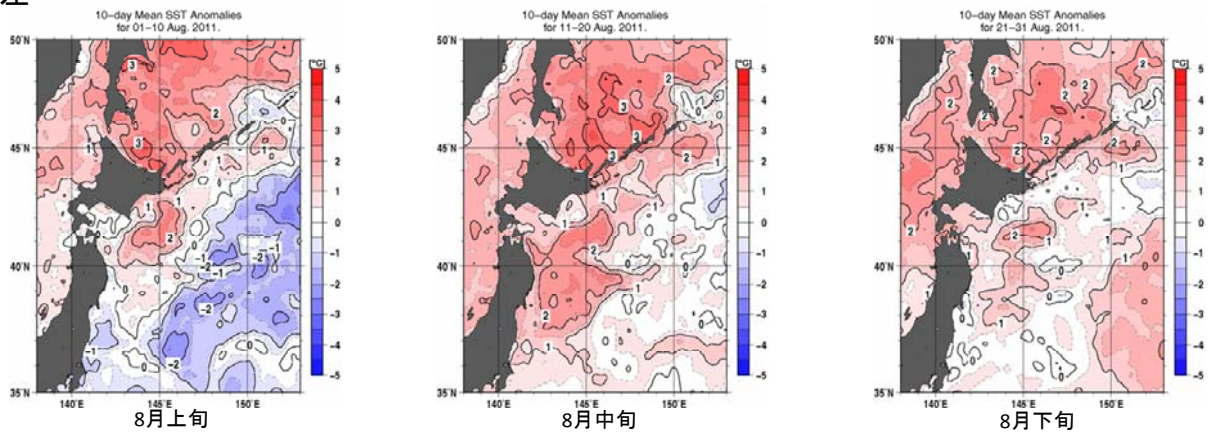


図 5. 北海道周辺および日本東方海域における 8 月下旬の海面水温偏差図。上段: 前年差(平成 22 年(2010)との差)、下段: 平年差(過去 30 年間の平均値との差)。出典: 気象庁 HP